

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493100125	事業の開始年月日	平成22年10月1日	
		指定年月日	平成22年10月1日	
法人名	ALSOK介護株式会社			
事業所名	グループホームみんなの家横浜上永谷松風			
所在地	() 横浜市港南区野庭町240			
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和4年11月30日	評価結果 市町村受理日	令和5年2月28日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

緑に囲まれた静かな環境のなかにあります。コロナの影響で外出、外食ご家族様の面会など楽しんで頂ける機会が少なくなっていました。これからの状況を見ながら外部とのつながりが途絶えないように努めていきたいと思っています。日々の生活を楽しんで頂けるように手作りのおやつや、壁飾り作成などのレク、会社主催によるリモート体操、リモート盆踊り、リモートクリスマス会等にも参加して頂き、画面を通して他の施設の方とも交流を図っています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年12月15日	評価機関 評価決定日	令和5年2月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、横浜市営地下鉄線「上永谷」駅から徒歩約13分の静かなお寺の境内にあります。春の桜の季節には満開の桜を、秋には紅葉を楽しみ、四季折々の自然を満喫しながら散策できる環境にあります。

<優れている点>

事業所の独自の理念は「想いやりは、最高のケアにつながる」を開設時に作成しています。職員は日頃より理念を確認し合い、利用者の立場に立ったサービスの提供を心掛け、介護の実践に努めています。運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、地域代表、民生委員、地域包括支援センターの職員、利用者家族、時には寺の住職家族が参加し、運営内容や行事を報告し、意見交換を行い事業所のサービス内容の開示に努めています。現在はコロナ禍のため、書面開催となっています。医療面では、医師と看護師が連携を図りながら安心して医療の受診と健康相談ができる体制にあります。重度化した場合の対応指針を説明し、利用者・家族の意向を確認しながら看取り介護を行う体制が確立しています。

<工夫点>

職員は法人の年間研修予定表により、新入社員研修、キャリア入社研修、新任事業所長研修、介護職員実技研修などを受講し、自己啓発と人材育成に努めています。利用者は法人主催のリモートなどによる、いきいきリズム体操、ALSOKあんしんヨガなどのリモート体操を行い、日常的にタオル体操も実施し、日々の生活の中で健康維持と楽しみの時間となっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームみんなの家横浜上永谷松風
ユニット名	1U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員会議などの場で、定期的を確認して、理念の共有を図っている。また、事業所内に理念を掲示して、確認できるようにしている。	理念は開設時に作成し、1階と2階の事務室に掲示してあります。管理者は新入職員の研修時に説明し、職員は利用者が人生の先輩であることを意識し、日頃の介護介助の中で理解を深め互いに確かめ合い実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナの影響で、地域のイベントは、中止になっている。状況によって再開する。地域清掃には、引き続き、参加している。	町内会に加入し、正月には境内の寺へ行き参拝しています。夏祭りには近くの公園へ行き、ボランティアが大正琴やコーラス歌い、交流しています。現在はコロナ禍のために中止しています。	コロナ禍の収束後は、近隣の幼稚園や保育園などとの交流などにより一層の地域交流が期待されます。また、中学生・高校生を社会学習の一環として受け入れるなども期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方々やご家族様を施設内にお招きできない状況が続いており、ブログなどを通じて、情報を発信している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、コロナの影響で書面での開催となっています。ご家族様から、ご意見を頂き運営に繁栄させています。	運営推進会議は町内会の代表者、民生委員、地域包括支援センターの職員、利用者家族などを構成委員として2ヶ月毎に開催しています。会議では事業所の取り組み姿勢や行事報告をし、意見交換をしています。現在はコロナ禍のため書面報告をしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	コロナの影響で連絡が取りづらい状況です。今後、状況に応じて連絡を密に取っていきます。	管理者は港南区役所高齢・障害支援課へ業務上の相談をしています。介護度の認定更新は家族に代わって立ち会いもしています。グループホーム連絡会にはリモートで参加しています。現在はコロナのため中止しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会において、テーマに基づき、身体拘束のないケアについての話し合いを実施しています	身体拘束廃止委員会があり、事例を交えて話し合っています。職員はミーティング時に話し合い、正しい理解に努めています。スピーチロックについても研修の中で学んでいます。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	会社からの課題に沿って高齢者虐待防止委員会を開催し、欠席の職員には、会議録を回覧し、虐待が見過ごされる事がないように努めています	法人研修により高齢者の虐待について学んでいます。職員は身体拘束と虐待防止を2ヶ月毎、交互に事例に基づき学んでいます。ミーティング時には話し合い、お互いに確認し合って正しい理解に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	資料を基に、権利擁護に関する制度への理解を深めるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、十分な内容説明を行い、不安や疑問点が残らずに家族様に安心して頂けるように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナで、家族会の開催が出来ない状況ですが個別にご家族様には入居者様の状況報告を随時行い、ご意見、ご要望を運営に反映している。	運営推進会議や家族の来訪時に意見や要望を聞いて運営面に反映しています。家族より利用者が腰の痛みがあります。注射など処置についての相談もあります。現在はコロナ禍のため感染防止を図りながら家族の来訪を緩和しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の職員会議や個人面談の時に職員からの意見を聞き、運営に反映させている。	管理者は朝夕の申し送り時に職員から意見や要望を聞き、業務に反映しています。職員から勤務上のシフトに関する要望があります。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的に職員個々の勤務状況を考課しやりがいをもちながら働けるように給与水準、条件などの整備に努めている。	管理者は年1回職員と面談し、職場環境づくりに努めています。職員は健康診断を行い、健康管理に努めています。夜勤者は年2回の健康診断を実施しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人による研修が行われており、職員には、個々の状況に応じた研修を受けて頂いている。	職員は常勤・非常勤を問わず社内研修を受講し、管理者は希望により外部研修にも参加できるように配慮しています。夜勤者には不安がないようにベテラン職員が教育をし、初任者研修や実務者研修には法人が受講料を負担し、人材育成にも努めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナで参加が難しくなっているが、地域包括支援センターなどを通じて同業者との交流する機会をつくっていきます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居される前に、ご利用者様と面談を行い不安なこと、要望等について聞き取り、ホームで安心して生活して頂けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居される前に、ご家族との面談を行い、不安な事、ご要望について話を伺い安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時、入居後の利用者様、ご家族様とお話やご様子から、その方に必要な支援を見極めたサービスの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者様と職員が共に、レクリエーションや体操を行い、お互いの関係を深めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナの影響でご家族様には、随時ご利用者様のご様子をお伝えしている。コロナの影響で通院以外の外出は減っているが、ご家族様との関係を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	事業所への訪問は、コロナの影響によりご遠慮頂いている。状況に応じて再開する。	利用者は家族と一緒に馴染みの美容院や通院時に外食に行き、墓参りにも出掛けています。正月には自宅へ帰り、昼食後事業所へ戻る人もいます。親族の葬儀に出席する人もいます。現在はコロナ禍のため緩和していますが、来訪や外出の機会が減っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握し、職員が関わり利用者様が孤立しないような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	これまでの関係性を大切にし、ご家族からの相談や支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人からの聞き取りや、職員からの情報を基に、ケア会議を開催し、本人本位のケアが出来るように努めている。	日々のケアの会話の中の間話などで傾聴しています。申し送りノートに記載し共有しています。職員会議時に話し合いその日のケアやケアプランに反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前、ご本人やご家族様から生活歴、生活環境などをお尋ねしご本人が混乱せずに生活出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者様、一人ひとりの生活、心身の状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人やご家族様のご要望やご意見を踏まえてケア会議を開催し、それぞれの意見を反映したケアプランを作成している。	カンファレンスにはケアマネジャーや職員・居室担当者が参加しています。本人や家族の要望や意向は家族への手紙のやり取りなどでも把握しています。介護中のメモや申し送りノート、医師の受診記録を基に短期目標3ヶ月、長期目標は6ヶ月を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録や連絡ノートを活用してケアの実践・結果・気づきなど職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族様の状況に応じて、必要な支援やサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を把握し利用者様が豊かな生活を送れるように支援しています		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に、本人及びご家族様の同意を頂き、契約して頂いた医療関係者と連携し、定期的、容体変化の時など、適切な医療を受けられる様に支援している。	協力医療機関の内科医と歯科医が月2回往診しています。歯科医の口腔ケアは毎週実施しています。施設長は受診前に容態などを聞き取り医師に伝えています。個人受診ノートや申し送りノートに記載しています。服薬は誤薬がないように留意しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者様の状況を把握し、変化などに気づいた時は。医療連携看護師に報告相談、指示を受け利用者様が適切な受診や看護を受けられる用に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、病院とご家族の話し合いに同席させて頂き、早期に退院ができるように努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、ご家族様に適切なタイミングではなしあいをを行っている。事業所で出来る事を説明し介護の方針を共有して頂き、	入居時に重度化した場合の対応について説明し同意を得ています。看取り介護のプランは1ヶ月ごとに作成し、居室が静かになり過ぎないように好きな音楽をかけたりドアを開けてホームの様子が分かるように配慮しています。職員は看取り介護を学んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な訓練を行い、職員が適切に対応出来る様にしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、避難訓練と夜間想定訓練を行っている。日頃から地域の避難場所を確認している。	避難訓練は年2回、夜間想定を含めて実施しています。非常災害用の食料や飲料水は3日以上備蓄しています。	地域との協力体制を深め協力体制を築くために避難訓練への地域住民の参加も期待されます。利用者の見守りなど町内会の人との話し合いや、備蓄品一覧表も作成することを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者様の人格を尊重しプライバシーを損なうことのないよう=気をつけている	人格の尊重について高齢者虐待防止委員会の研修で学んでいます。職員は日頃よりプライバシーを損ねることのないように言葉遣いに留意しています。入浴や排泄時など露出を防ぐタオルを渡すなど、プライバシーに配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	レクへの参加やフロアや居室で過ごされることなど、日々の生活ご於いてご自分。で自己決定出来るように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様のペースで生活して頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理美容を利用して頂き、身だしなみ、入浴、清拭による清潔保持に努めている。利用者様には、持参して頂いている衣類で身だしなみを整えて頂きおしゃれが出来るように支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を楽しみながら召し上がって頂けるように、ご利用者様の状況に応じた食事形態、介助に努めている。	献立表と刻み食の献立カレンダーが1ヶ月分届きます。献立と食材は外部業者に委託し、食材を湯せんで温めて盛り付けしています。おやつは利用者の好物なゼリーなども用意しています。誕生会には飾りつけしたケーキでお祝いしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食の食事量、水分の摂取量を記録している。ご利用者様の状況に応じて召し上がって頂けるように医療と連携をとり、栄養摂取出来るようにつとめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、ご利用者様の力に応じて口腔ケアの声掛け、支援をしている。週に1回の歯科衛生士の口腔ケアを受けられている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	毎日の排泄の記録を取り、排泄のパターンを把握し、ご利用者様にトイレへの声掛けをしたり、車椅子の方もトイレで排泄が出来るようにしえんしている。	排泄チェック表で日頃より利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導の支援をしています。夜間はコールボタンを設置し、半数の利用者がベットの足元にセンサーを置き、転倒防止に努めています。全員がリハビリパンツを使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の排泄の記録を取り、医療機関と連携して。ご利用者様の状態に合わせた排便コントロールを行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	本人の希望やタイミングに合わせて、柔軟に時間帯を変更して気持ちよく入浴出来るようにしている。	入浴は週2回、曜日を決めず利用者の希望によって午前・午後に実施しています。入浴拒否時には、衣服を着替えましょうなどの声掛けや清拭を工夫をして入浴支援をしています。ゆず湯や菖蒲湯の季節湯も楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の生活ペースに合わせて休息したり、安心して気持ちよく眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬マニュアルに基づいて実施し、誤薬の防止に努めている。ご利用者様の薬の説明書はファイリングし、職員が確認、理解し症状の変化に気づく様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者様には、「飾り付け屋」洗濯物たたみなどのお手伝いをして頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナの影響で、ご利用者様の外出はご遠慮して頂いていた。状況に応じて再開する。	コロナ禍で外出は控えています。天気の良い日にはベランダのイスや、外にイスを置き外気浴支援をしています。事業所敷地の寺の境内を散策もしています。寺や門前の周りの春の桜や、秋のイチョウの観賞も楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	施設内で入居者様が、お金を持つことは、お断りしている。コロナの影響で職員が付き添っての買い物も現在実施していない。状況に応じて、対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様からの電話や手紙は、随時受け付けており、ご利用者様とやり取りして頂いている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日差しや照明、温度は、ご利用者様が快適な生活を送れるように調整している。夜間は、暗くなりすぎて転倒事故が起きないように調整している。	リビングは明るくて居心地よい環境になるように、清潔保持を心掛けています。壁面には大きな文字で書いたカレンダーを掲示し、日にちが分かるようにしています。12枚の干支や、クリスマスのサンタの飾りつけなど季節が感じられるよう工夫もしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにはソファを設置して、ご利用者様同士がお話ができる環境を作っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居される際に、今まで使用していたなじみのある物や着慣れた衣類などの持参をお願いし、ご本人が心地よく過ごせる様に工夫している。	居室はクローゼット、洗面台・ベッド・防災カーテン、タンスを備えています。ベッドの足元には安全のためにセンサーを設置しています。ポータブルトイレは家具で目隠しするなど、プライバシー配慮のうえ配置しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	お1人でも行く事が出来るようにトイレや居室のドアに室名を分かり易く張り出し、お1人でもいく事が出来るように工夫している。		

事業所名	グループホームみんなの家横浜上永谷松風
ユニット名	2U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員会議などの場で、定期的を確認して、理念の共有を図っている。また、事業所内に理念を掲示して、確認できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナの影響で、地域のイベントは、中止になっている。状況によって再開する。地域清掃には、引き続き、参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方々やご家族様を施設内にお招きできない状況が続いており、ブログなどを通じて、情報を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、コロナの影響で書面での開催となっています。ご家族様から、ご意見を頂き運営に繁栄させています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	コロナの影響で連絡が取りづらい状況です。今後、状況に応じて連絡を密に取っていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会において、テーマに基づき、身体拘束のないケアについての話し合いを実施しています		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	会社からの課題に沿って高齢者虐待防止委員会を開催し、欠席の職員には、会議録を回覧し、虐待が見過ごされる事がないように努めています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	資料を基に、権利擁護に関する制度への理解を深めるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、十分な内容説明を行い、不安や疑問点が残らずに家族様に安心して頂けるように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナで、家族会の開催が出来ない状況ですが個別にご家族様には入居者様の状況報告を随時行い、ご意見、ご要望を運営に反映している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の職員会議や個人面談の時に職員からの意見を聞き、運営に反映させている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的に職員個々の勤務状況を考課しやりがいを持って働けるように給与水準、条件などの整備に努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人による研修が行われており、職員には、個々の状況に応じた研修を受けて頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナで参加が難しくなっているが、地域包括支援センターなどを通じて同業者との交流する機会をつくっていきます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居される前に、ご利用者様と面談を行い不安なこと、要望等について聞き取り、ホームで安心して生活して頂けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居される前に、ご家族との面談を行い、不安な事、ご要望について話を伺い安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時、入居後の利用者様、ご家族様とお話やご様子から、その方に必要な支援を見極めたサービスの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者様と職員が共に、レクリエーションや体操を行い、お互いの関係を深めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナの影響でご家族様には、随時ご利用者様のご様子をお伝えしている。コロナの影響で通院以外の外出は減っているが、ご家族様との関係を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	事業所への訪問は、コロナの影響によりご遠慮頂いている。状況に応じて再開する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	コロナの影響で、ご利用者様の外出はご遠慮して頂いていた。状況に応じて再開する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	施設内で入居者様が、お金を持つことは、お断りしている。コロナの影響で職員が付き添っての買い物も現在実施していない。状況に応じて、対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人からの聞き取りや、職員からの情報を基に、ケア会議を開催し、本人本位のケアが出来るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前、ご本人やご家族様から生活歴、生活環境などをお尋ねしご本人が混乱せずに生活出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者様、一人ひとりの生活、心身の状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人やご家族様のご要望やご意見を踏まえてケア会議を開催し、それぞれの意見を反映したケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録や連絡ノートを活用してケアの実践・結果・気づきなど職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族様の状況に応じて、必要な支援やサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を把握し利用者様が豊かな生活を送れるように支援しています		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に、本人及びご家族様の同意を頂き、契約して頂いた医療関係者と連携し、定期的、容体変化の時など、適切な医療を受けられる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者様の状況を把握し、変化などに気づいた時は。医療連携看護師に報告相談、指示を受け利用者様が適切な受診や看護を受けられる用に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、病院とご家族の話し合いに同席させて頂き、早期に退院ができるように努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、ご家族様に適切なタイミングではなしあいをを行っている。事業所で出来る事を説明し介護の方針を共有して頂き、		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に訓練を行い、職員が適切に対応出来る様にしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、避難訓練と夜間想定訓練を行って、災害時に避難が出来るようにしている。日頃から地域の避難場所を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者様の人格を尊重しプライバシーを損なうことのないよう気をつけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	レクへの参加やフロアや居室で過ごされることなど、日々の生活においてご自分。で自己決定出来るように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様のペースで生活して頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理美容を利用して頂き、身だしなみ、入浴、清拭による清潔保持に努めている。利用者様には、持参して頂いている衣類で身だしなみを整えて頂きおしゃれが出来るように支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を楽しみながら召し上がって頂けるように、ご利用者様の状況に応じた食事形態、介助に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食の食事量、水分の摂取量を記録している。ご利用者様の状況に応じて召し上がって頂けるように医療と連携をとり、栄養摂取出来るようにつとめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、ご利用者様の力に応じて口腔ケアの声掛け、支援をしている。週に1回の歯科衛生士の口腔ケアを受けられている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	毎日の排泄の記録を取り、排泄のパターンを把握し、ご利用者様にトイレへの声掛けをしたり、車椅子の方もトイレで排泄が出来るようにしえんしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の排泄の記録を取り、医療機関と連携して。ご利用者様の状態に合わせた排便コントロールを行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	本人の希望やタイミングに合わせて、柔軟に時間帯を変更して気持ちよく入浴出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の生活ペースに合わせて休息したり、安心して気持ちよく眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬マニュアルに基づいて実施し、誤薬の防止に努めている。ご利用者様の薬の説明書はファイリングし、職員が確認、理解し症状の変化に気づく様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者様には、「飾り付け屋」洗濯物たたみなどのお手伝いをして頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナの影響で、ご利用者様の外出はご遠慮して頂いていた。状況に応じて再開する。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	施設内で入居者様が、お金を持つことは、お断りしている。コロナの影響で職員が付き添っての買い物も現在実施していない。状況に応じて、対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様からの電話や手紙は、随時受け付けており、ご利用者様とやり取りして頂いている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日差しや照明、温度は、ご利用者様が快適な生活を送れるように調整している。夜間は、暗くなりすぎて転倒事故が起きないように調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにはソファを設置して、ご利用者様同士がお話ができる環境を作っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居される際に、今まで使用していたなじみのある物や着慣れた衣類などの持参をお願いし、ご本人が心地よく過ごせる様に工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	お1人でも行く事が出来るようにトイレや居室のドアに室名を分かり易く張り出し、お1人でもいく事が出来るように工夫している。		

2022年度

事業所名：GH横浜上永谷松風

作成日： 2023年 2月 25 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナの影響により近隣、地域との関係がとだえている。	コロナの終息後は近隣、地域との交流を復活させていく	・地域のイベントの参加 ・中学生、高校生などの職場体験としての受け入れ	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月